様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　４月　４日現在

機関番号：２４４０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９５３０５６０
研究課題名（和文）　相補的ステレオタイプと社会システム正当化動機の関係

研究課題名（英文）Relationship between complementary stereotypes and system justification motive.

研究代表者
池上　知子（IKEGAMI TOMOKO ）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：９０１９１８６６

研究成果の概要（和文）：本研究は、平等主義を標榜する人々の心の中に、格差や不平等を容認し正当化しようとする態度が潜んでいることを、日本的学歴階層社会の捉え方の検討を通して検証した。人々は、ある次元での格差は別の次元で解消されるはずという推論を導く暗黙の信念である「相補的ステレオタイプ」もしくは「相補的世界観」に依存することで格差に起因する痛みを緩和し、学歴社会を肯定していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The present research demonstrated that, contrary to an egalitarian view, people are unconsciously inclined to justify the exiting unjust social order. Specifically it was found that complementary-world view mitigates pains stemming from the Japanese academic pedigree society by ascribing compensating virtues to the disadvantaged and corresponding vices to the advantaged, creating an illusion of equality.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1000,000	300,000	1300,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	2900,000	870,000	3770,000

研究分野：社会心理学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：社会的認知　相補的ステレオタイプ　システム正当化　学歴階層社会

１．研究開始当初の背景

一億総中流社会と呼ばれていた日本で、社会経済状況が変化し、格差、不平等問題に関心が高まってきた。そのようななか、格差を是正すべきであるとする一般論とは裏腹に、われわれは格差を容認する態度を潜在させていることが社会心理学の分野で指摘され、その背景にある要因を探る必要性があった。

また、申請者はそれまで、自己防衛機制に基づく個人レベルの認知と社会のマクロ構造の間にある連関の構図を解明するという視座から、不本意な社会的アイデンティティ（不本意な集団所属により集団脱同一視を起こすこと）がいかにして集団の序列に基づいた差別的認知を誘発するか、また、それはどのような社会システムのもとで起こりやすいかについて研究を行っていた。そして、日本の学歴社会のように集団間序列（i.e., 大学間序列）が人生のさまざまな局面で偏重される社会、あるいはそのような信念が広く共

有されている社会では、その重みが限局化されていると信じられている社会に比べ、不本意な社会的アイデンティティをもつ人間を生み出しやすいこと、また不本意なアイデンティティに起因する脅威への自己防衛反応として所属集団より下位の集団を貶価する傾向があらわれやすいことを見出した。これは、個人レベルの認知機制が既存の社会の階層構造を維持強化する方向に作用していることを意味する。本研究においても、同様の視座から、個人レベルでの相補的認知が社会のマクロ構造といかに関連するかを検討したいと考えた。

２．研究の目的

⑴ 社会に存在する格差や序列を容認する心理機制を他者や集団の認知において使用される相補的ステレオタイプと関連づけながら明らかにする。

⑵ 相補的ステレオタイのリアリティを減じることが、社会的格差の是正に人々を動機づける方策として有効か否かを検討する。

３．研究の方法

（１）まず、大学生を対象に予備調査を実施し、本研究で使用する種々の尺度（システム正当化尺度、相補的世界観尺度、学歴社会への態度尺度、大学同一視尺度）の信頼性と妥当性を検討した。

（２）大学間の序列に基づいて評価対象の大学を提示するため、回答者の所属する大学との相対的地位差が妥当であるかを予備調査によって確認した。

（３）社会人を対象に質問紙調査を実施し、相補的世界観が学歴格差社会の捉え方にどのように影響するか、学歴社会において優位に立つ高学歴者と劣位に置かれている低学歴者によって、それはどのように異なるかを検討した。

（４）大学生を対象に質問紙実験を実施した。学歴社会において自分より優位に立つ集団の人間（序列が上位の大学の学生）と劣位に立たされている人間（序列が下位にある大学の学生）について能力的特性（地位関連特性）と対人的特性（地位無関連特性）の両次元で評価するとき、相補的ステレオタイプが適用されるかどうか（両次元での評価が相補的になるかどうか)、相補的ステレオタイプに基づく認知が格差に起因する心的葛藤を緩和し学歴社会の正当化を導くかを検討した。

（５）大学生を対象に、シナリオを使用した質問紙実験を行った。相補性を否定する事例（社会的な成功者は能力面でも人格面でもすぐれており、失敗者は両方において劣っていることを示す事例）を提示することにより、平等幻想が取り払われ、既存のシステムの不条理や矛盾に対する感受性が増すかどうかを検討した。

４．研究成果

成果の概要

＜2007 年度の成果＞

（１）日本の学歴社会システムを正当化する動機を測定するための尺度を作成し、大学生を対象に実施した調査により信頼性と妥当性を確認した。

（２）日本社会における学歴による地位差と相補的ステレオタイプが連関しているかどうかを検証した。大学生を対象に所属大学より学力水準が上位の大学の学生と下位の大学の学生を能力特性と対人特性について評価させたところ、集団レベルでも対人レベルでも相補性が認められた。また、上位の大学の能力評価と下位の大学の社会性評価の間、下位の大学の能力評価と上位の大学の社会性評価の間に正の相関関係が見られるなど、全体として相補的世界観を維持せんとする傾向が認められた。

＜2008 年度の成果＞

相補的ステレオタイプの効果が顕現化もしくは低減しやすい条件を明らかにするため、内集団高揚動機とシステム正当化動機の関係を検討したところ、以下の知見が得られた。

（１）大学生の場合、所属大学への自己同一視の程度が高いほど、内集団高揚動機が強く喚起されたときほど、全体として相補性を顕著に示した。

（２）上位の大学に対する評価にみられる相補性は内集団高揚動機が高まるときに学歴社会への正当性と関連性を示したが、下位の大学の評価にみられる相補性は内集団高揚動機の高低にかかわらず、学歴社会の正当性と関連することが確認された。

<2009 年度の成果＞

（１）なぜ相補的ステレオイプがシステム正当化を導くのかを大学生を対象にシナリオ実験を行い検討した。その結果、相補的事例への接触が、成功者と失敗者の間の幸福格差を解消し平等幻想が生成されること、その結果として格差を生み出す社会システムが正当化されることが明らかになった。

（２）社会人を対象に質問紙調査を実施し、相補的世界観が、学歴、性別、年齢にかかわりなく、現行の日本社会全体の肯定に結びつくこと、また学歴格差自体の認識を抑制することが明らかになった。

＜2010 年度の成果＞

（１）相補的ステレオタイプがどのような心的過程を経て学歴格差社会の容認に結びつくかを複眼的に検証した。大学生を対象に所属校より学力水準が上位の大学と下位の大学の学生について能力特性と対人特性での評価を求め相補性の指標を算出した。併せて、学歴社会を肯定する態度、所属大学への自己同一視を測定した。その結果、上位校に対する相補的認知は、内集団高揚動機との葛藤を解消することによって、下位校に対する相補的認知は、平等主義世界観との葛藤を解消することによって、学歴主義の肯定化を促進していることが示唆された。

（２）相補的ステレオタイプの効果が顕在化しやすい境界条件についてもシナリオ実験により検討した。その結果、相補的事例への接触により成功者と失敗者の幸福格差が解消されたように知覚され、現行の社会システムが正当化されるのは、成功と失敗が本人のコントロールの及ばない要因によってもたらされたと知覚されたときに限定されることが明らかとなった。

成果の意義

（１）人々を格差の容認に向かわせる要因はさまざまあるが、本研究により個々人が保有する相補性に関する誤った信念や世界観が一因であることがわかった。相補的ステレオタイプの効果は、欧米の研究者により指摘はされていたが、それが日本的学歴階層社会においても妥当性をもつことが示されたといえる。

（２）欧米の研究では、相補的ステレオタイプがシステム正当化を導く心理過程については十分明らかではなかったが、本研究により、その詳細が明らかになったことは大きな意義があるといえる。すなわち、相補的ステレオタイプがシステム正当化を導くのは、成功者と失敗者の地位関特性（能力次元）での差異が、地位無関連特性（対人特性）における相補的評価によって解消され、両者は幸福度において同等であるという知覚を介している点、また、相補的認知は、上位集団に対する場合と、下位集団に対する場合とでは、背景にある動機が異なるという点は、本研究が新たに見出した重要な知見である。

（３）本研究は、社会の階層構造の維持において相補的ステレオタイプの果たしている役割を検討することを通して、個人レベルの認知機制と社会のマクロ構造の間の相互連関の構図の一端を描き出すことができ、個人内過程の分析に集中しがちであった社会認知研究に新たな地平を切り開くものとして注目に値する。

（４）本研究は、格差が拡大し階層の固定化が進行しつつある日本社会の現状を実力主義への転換の結果であると受けとめ、これを正当化する風潮の背後に、人々が自身でも気づかぬ心理が働いていることを示した。これは、社会学や経済学とは異なる切り口で格差問題に迫るものであり、社会一般に対して大きなインパクトを持ちうると考えられる。

今後の展望

（１）本研究では、非相補的事例への接触が相補的ステレオタイプもしくは相補的世界観のリアリティを減じ、人々に現行のシステムの不条理を認識させることが可能になるのではないかと考えていた。しかし、非相補的事例への接触は、相補的事例とは異なる心理機制により、システム正当化を導くことが示された。これは当初の予想を裏切るものであった。したがって、本研究では、格差是正に人々を動機づける方途については明らかにできなかったことになる。しかしながら、相補的ステレオタイプの効果の境界条件がわかり、人生や環境に対する個人の統制感覚の低下が、相補的世界観への依存を強めることが示唆された。よって、今後は、個人の統制感覚とシステム正当化過程の関係をさらに追究していきたいと考えている。

（２）また、本研究は、当初、潜在指標を用いた検討を計画していたが、時間的制約により、それを実現することができなかった。そのため顕在指標のみの検討となり、それが結果に影響を与えた可能性がある。今後は、意識的な修正が困難な潜在指標を用いてシステム正当化の深層過程に迫りたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

①Ikegami, T. (2010). Precursors and consequences of ingroup disidentification: Status system beliefs and social identity. *Identity: An International Journal of Research and theory, 10, 233-253.* 査読有

②Ikegami, T., & Ishida, Y. (2007). Status system

and the role of disidentification in discriminatory perception of outgroups. *Japanese Psychological Research, 49*, 136-147. 査読有

〔学会発表〕（計 21 件）

①池上知子　学歴階層社会の正当性を支える認知基盤としての相補的ステレオタイプ　日本心理学会第 74 回大会 2010 年 9 月 22 日　大阪大学（豊中キャンパス）

②Ikegami, T. Locus of control moderates effects of complementary exemplar on system justification. The 22nd Annual Convention of Association for Psychological Science. 2010 年 5 月 28 日 Sheraton Boston Hotel. Boston (U.S.)

③池上知子　社会システム正当化における相補的ステレオタイプの役割　日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第 56 回大会　合同大会 2009 年 10 月 10 日　大阪大学 (吹田キャンパス)

④矢田尚也・池上知子　対人認知における相補性の生起過程に関する検討－感情の役割－　日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会　2009 年 10 月 10 日　大阪大学（吹田キャンパス）

⑤池上知子　相補的世界観はシステム認知をいかに規定しているか　日本心理学会第 73 回大会　2009 年 8 月 26 日　立命館大学（衣笠キャンパス）

⑥池上知子　内集団地位への脅威と相補的ステレオタイプ効果　－システム正当化動機は内集団高揚動機を凌駕するか－ 日本心理学会第 72 回大会　2008 年 9 月 19 日　北海道大学

⑦Ikegami, T. The moderating role of group identification in complementary stereotype effects. The 29th International Congress of Psychology. 2008 年 7 月 22 日　Berlin (Germany)

⑧Ikegami, T. Complementary stereotypes in status hierarchy: The role of group identification. The 9th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. 2008 年 2 月 8 日　Albuquerque (U.S.)

⑨池上知子　学歴社会にみる相補的ステレオタイプと平等幻想　日本社会心理学会第 48 回大会・ワークショップ 5「両面価値的ステレオタイプ研究の発展」　2007 年 9 月 23 日　早稲田大学（戸山キャンパス）

⑩池上知子・向井有理子　集団同一視と序列意識の再生産　日本社会心理学会第 48 回大会　2007 年 9 月 24 日　早稲田大学（戸山キャンパス）

⑪Ikegami, T. State of art of Japanese social psychology: Current directions in social cognition research. The Seventh Conference of Asian Association of Social Psychology. 2007 年 7 月 26 日 Kota Kinabalu (Malaysia)

〔図書〕（計 4 件）

① 浦光博・北村英哉（編著）個人の中の社会（分担執筆）誠信書房 356 頁（第 3 章「対人認知の心理機制－人はいかにして他者の心を知るのか」48-69 頁）2010 年 10 月 15 日

② 山祐嗣・山口素子・小林知博（編著）基礎から学ぶ心理学・臨床心理学（分担執筆）　北大路書房　268 頁（第 10 章「対人関係と集団」83-91 頁）2009 年 4 月 10 日

③ 無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳（編）よくわかる心理学　ミネルヴァ書房 357 頁　2009 年 2 月 20 日

④ 池上知子・遠藤由美　グラフィック社会心理学　第２版　サイエンス社　331 頁 2008 年 12 月 25 日

〔その他〕
ホームページ等
①Ikegami, T. Commentary remarks: Rocky road to equality and peace. In Annual Report, 2008 of the Center for the Study of Social Stratification and Inequality. Tohoku University pp.153-158. 2009 年 3 月

６．研究組織

(1)研究代表者
池上　知子　（IKEGAMI TOMOKO）
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90191866

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし